

研究ノート

米国獣医師会教育審議会のア krediteーションシステムの特色 —国際的通用性のあるわが国獣医学教育評価システム構築への示唆—

山口 豪

(デジタルハリウッド大学)

本稿の目的は、米国獣医師会教育審議会（AVMA-COE）のア krediteーションシステムの特色を考察して、国際的通用性のあるわが国獣医学教育評価システム構築への示唆を導くことにある。

本稿では、第1に近年のわが国の獣医系大学を取り巻く環境を概観し、第2に AVMA-COE のア krediteーションシステムに関する先行研究をレビューする。そして、第3に AVMA-COE のア krediteーションシステムの特色を分析し、特に AVMA-COE のアウトカム評価と国際的な共同実地調査の2つの側面に焦点を当てて考察する。最後に上記の考察を踏まえて、獣医学教育における国際的通用性のあるわが国の教育評価システム確立のためのいくつかの将来的な方向性を提案する。

キーワード：米国獣医師会教育審議会、アウトカム・アセスメント、国際的な共同実地調査、国際的通用性のある獣医学教育評価システム、専門分野別ア krediteーション

1. 本稿の目的

わが国の大学は、社会・経済のグローバル化の進展に伴う大学間競争の激化や、地球環境問題の発生に伴う持続可能社会構築の必要性の高まりなどによって、高度かつ安定した国際社会を創出するためのグローバル化時代に対応した有為な人材を輩出することが求められている。そのために、わが国の大学は、国際的通用性・信頼性のある学位を授与する必要性が高まると同時に、各学士課程修了時に「何ができるようになったか」という学習成果を示す重要性も高まっている。加えて、そうした学位の質保証を行う上で、わが国において、近年、第3者による専門分野別評価を実施する意義が高まっている。例えば、2002年に中央教育審議会は「大学の質の保証に係る新たなシステムの構築について（答申）」の中で、「大学の専門性を様々な分野ごとに評価する、いわゆる専門分野別第三者評価についても、例えば日本技術者教育認定機構（JABEE）が行っているように、将来的には多様な分野で行われることが必要である。」との指摘を行い、その後、2005年に同審議会は「我が国の高等教育の将来像（答申）」の中で、「事後評価に関しては、社会的要請を踏まえれば、機関別評価と専門職大学院評価のみでなく分野別評価についても積極的に採り入れられることが期待される。その際、分野の特性に応じて学協会等関係団体の参画・協力を得ることが考えられる。」との提言を示している。

近年、こうしたわが国における高等教育の分野別質保

証に向けた取組みの一層の推進が求められている中で、わが国においては、工学、薬学、歯学、医学、看護学などの専門分野別評価が進んでいる。さらに、日本学術会議は、様々な分野の分野別参照基準を作成している。

かかる状況下で、獣医学分野については、大学基準協会が2017年4月より獣医学教育評価を開始するに至っている。この評価は、認証評価制度の枠組みの下での評価ではなく、各大学による任意評価として、学士課程における獣医学教育モデルコアカリキュラムの充足状況等を評価することに主眼を置いた特色ある取組みといえる。その一方で、大学基準協会の定めた「獣医学教育に関する基準」の冒頭には、「学士課程における獣医学教育の質の維持及び向上を図るとともに、現在の学士課程における獣医学教育の現状、国際的な獣医学教育の水準を視野に、専門分野別評価を行うために改定したものである。」（大学基準協会, 2016, p. 51）とあるように、大学基準協会の獣医学教育評価は、国際的な水準を視野に入れている。また、同基準が「わが国の獣医学教育の国際通用性を高めることも目標とされているため、欧米における獣医学教育のグローバル・スタンダードを視野に入れた内容となっている」（中山, 2016）という点も特徴的である。

さらに、近年、わが国において、獣医学教育課程を置く大学では、国際認証取得を目指す事例が出てきている。例えば、帯広畜産大学では、国際認証を取得するため、すでに同大学内に国際認証推進室が設けられている¹。

本稿では、こうした点を踏まえ、獣医学教育評価の先進的な取り組みを行っている米国獣医師会教育審議会（American Veterinary Medical Association Council on Education: AVMA-COE）の評価システムや評価基準を手がかりに、今後わが国の獣医学教育評価において、国際的通用性のある評価をより一層推進していくための示唆を導くことを目的として、以下で考察したい。

2. 先行研究

AVMA-COE の評価システムに関する先行研究について、以下の3つの観点から整理する。

第1は、AVMA-COE の評価システム全般を考察した研究である。まず、AVMA-COE の評価システムの概要をまとめたものとしては、北海道大学獣医学研究科（2011）があり、この内容を焦点化して報告した資料としては、獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議（2012）がある。つぎに、AVMA-COE の評価システムのうち、「アウトカム・アセスメント」と「（他国の評価者との）国際的な共同実地調査（Joint international site visits with other accreditors）」の2点に焦点を当てて考察したものとしては、山口（2015）がある。

第2は、AVMA-COE の評価受審に向けた条件を大学側の観点から考察した研究である。これについては、佐々木（2014a, 2014b）によるアメリカと韓国の大学の事例考察がある。前者はカリフォルニア大学デービス校（University of California, Davis）の獣医学教育課程の内実を紹介した後、AVMA-COE 認証の条件を考察したものである。また、この考察では、わが国の獣医系大学において、AVMA-COE の認証を受ける上での課題として、基準2の財務、基準4の臨床例、基準8の教員の数と質が挙げられると指摘している。後者は韓国ソウル大学獣医学部の AVMA-COE 認証へのロードマップを考察したものである。また、この考察では、AVMA-COE の11基準の中で基準4に定められている臨床例の条件が AVMA-COE の認証を受ける上での課題と指摘している。

第3に、分野別質保証という観点から、獣医学教育分野の質保証のあり方を提言した研究としては、大学評価・学位授与機構（2016）や日本学術会議・食料科学委員会・獣医学分科会（2017）がある。前者は、獣医学を含む様々な分野の関係団体に対してアンケートやヒアリングを行い、分野別質保証を推進するにあたっての現状と課題を分析した上で、分野別質保証の制度化の全体的方向性を示したものである。後者は、臨床獣医師の育成に重きを置く欧州や米国の獣医学教育基準をわが国の大学にそのまま採用することは適切でなく、これらの基準の基本となる

部分を参照しつつ国際的通用性を持つわが国独自の教育基準作りとこれを的確に評価できる人材育成を行うことが重要であると提言している。

こうした先行研究の中で、本論文は、山口（2015）の研究内容をベースに、AVMA-COE のウェブサイト等に掲載されている情報をもとに、最新の動向をフォローしながら、より詳しい内容の考察を行い、山口（2015）の研究内容をより進めたものと位置付けることができる。

本論文と山口（2015）との大きな違いは、以下3点にある。

第1に今後わが国の獣医学教育評価において重要になると考えられる国際的通用性のある評価システムを構築するための視点を本論文で新たに打ち出して考察した点である。また、そのシステム構築のために、AVMA-COE の評価システムの特色として、①アウトカム・アセスメントの重視と②国際的な共同実地調査の実施という2点を、山口（2015）以降において AVMA-COE が2016年9月に改定した最新の評価基準に基づき、本論文で詳細に取り上げた点である。

第2に AVMA-COE と大学基準協会のアウトカム・アセスメントに関する評価基準を比較考察し、その考察から国際的通用性のある評価システムを構築するために、わが国におけるアウトカム・アセスメント指標を盛り込んだ基準作りの必要性を本論文で提案している点である。

第3に国際的通用性のある評価システムを構築するために、大学基準協会が海外の評価団体との国際的な共同実地調査を実施することができるような評価システムの充実を図ることを本論文で推奨している点である。

獣医学分野において、AVMA-COE と大学基準協会の評価基準・システムを比較考察し、上記のような具体的提案をわが国に対して行った先行研究は、管見の限り見受けられないことから、本論文は一定の新規性・独自性があると筆者は考える。

3. AVMA-COE 評価システムの概要

3.1. 歴史

米国獣医師会（American Veterinary Medical Association: AVMA）は、1863年に設立され、1921年から獣医学分野のアクレディテーションを実施している。その後、1946年に AVMA の全体組織が改組され、教育審議会（Council on Education: COE）が AVMA の中に設置された。その時以来、AVMA 内の COE が、同分野のアクレディテーションを担うようになった（AVMA-COE, 2016, p. 5）。現在 AVMA は、イリノイ州のシャンバーグにあるオフィスを拠点に活動を展開している。

COE は、連邦教育省 (US Department of Education) からの認可を受けて、米国内で獣医大学／学部に対する専門分野別アクレディテーションを行う唯一の評価機関である。また、COE は、非政府組織の高等教育アクレディテーション審議会 (Council on Higher Education Accreditation: CHEA) の承認を受けてアクレディテーションを実施している。

3.2. 理念と責務

AVMA-COE の理念は、「明確に定義された評価基準を用いて、公正かつ適正に獣医学の学位プログラムを評価すること」(AVMA-COE, 2016, p. 7) である。

AVMA 内の COE は、以下①～⑧の責務を負っており、獣医師、獣医学生、及び社会の利益のために、年齢、人種、性別あるいは信条の差別なく、最善の方法を用いて、全ての活動を実施するよう努力している。

その7つの責務とは、「①獣医学士を付与している獣医学部を評価するための自律的権限を持って、それぞれの獣医学部に対して、確立した基準に従い、認証の決定を行い、認証の区分を指定する。②獣医学教育における活動的なプログラムを促進する。③教育方法の研究と勧告、ならびに獣医学教育の全ての面における継続的改善を推進する。④獣医学部が獣医学士を付与するための基準を勧告する。⑤毎年各獣医学部における評価結果一覧を公表する。⑥既存の獣医学部に対する提案や助言を行う。⑦獣医療の専門性、獣医療技術者、外国の獣医学部卒業生ならびに免許付与試験に関係する委員会の活動に関わる AVMA 理事会 (AVMA Board of Directors) に対して助言や勧告を行う。⑧専門的要求と社会的必要性の変化に対応する獣医師の能力を強化するためのカリキュラムの変更を勧告する。」(AVMA-COE, 2016, p. 6) である。

3.3. COE メンバー

COE のメンバーは、AVMA-COE 選考委員会、米国獣医学部協会選考委員会、およびカナダ獣医学会によって選ばれたメンバーで構成されている。そのメンバーは、少なくとも、獣医大学の教員獣医師5名、臨床獣医師6名、大動物臨床家1名、研究者獣医師1名、公衆衛生獣医師1名、非臨床かつ非大学教員の獣医師1名から、それぞれ構成されている。さらに、COE によって指名された一般人3名とカナダ獣医師会によって指名された同会員1名、および米国獣医学部協会の公式代表として選ばれた同会員1名から構成されている。COE メンバーの任期は、一部例外を除いて6年間である (AVMA-COE, 2016, p. 66)。

3.4. 評価基準と「点検・評価報告書」の様式

COE のアクレディテーション基準は、表1の11基準から構成されている (AVMA-COE, 2016, p. 19-23)。COE の評価を受審する獣医大学／学部は、「点検・評価報告書」を表1の見出しに沿ってまとめる必要がある。「点検・評価報告書」の本文は、全部で50ページ (片面印刷) を超えないものとし、この他の付属資料も50ページを超えてはならない。また、自己点検・評価の準備において、適切にデータを解析し、その傾向を明確に説明することが求められるとともに、評価者が容易に理解できる形式 (例えば、グラフ、図など) で提示し、教育哲学や長い説明は含めずに、教育計画が基準を満たす方法について、訪問調査チームとCOE が理解するのに役立つ簡潔な説明を行うことも求められる。また、付属書類は、当該獣医大学／学部が基準を満たす方法の理解に役立つものとして要求されたか、あるいは、当該学部がそのように感じたものに限らねばならない。追加資料は、訪問調査チームの会議室に置くことができるが、COE はそれらの資料を求めないし、その資料は最小限にしなければならない (AVMA-COE, 2016, p. 38)。

表1 AVMA-COE による「点検・評価報告書」の見出し

「点検・報告書」は、以下の見出しでまとめる必要がある。	
目的	基準6: 学生 (Students)
基準1: 組織 (Organization)	基準7: 学生の受け入れ (Admission)
基準2: 財政 (Finances)	基準8: 教員 (Faculty)
基準3: 施設・設備 (Physical Facilities and Equipment)	基準9: カリキュラム (Curriculum)
基準4: 臨床用資源 (Clinical Resources)	基準10: 研究計画 (Research Program)
基準5: 情報資源 (Information Resources)	基準11: 成果の評価 (Outcome Assessment)

出所: AVMA-COE (2016) の p. 38 より筆者作成

3.5. 評価手順

COE による評価手順の概要は、次のとおりである。まず、評価を受審する獣医大学／学部は、各基準に対する達成状況等を「点検・評価報告書」に包括的にまとめ、COE に提出する。つぎに、その報告書の内容についてCOE は、実地調査を行う前に書面審査を行う。その後、COE は、実地調査のチームの構成員を任命し、実地調査前にその評価者に対して研修を行う。そして、そのチームは実地調査を行い、評価結果報告書の草案を作成し、COE に提出する。最終的に、COE はこの報告書を受け、COE 委員全員で、各基準に適合するか否かを検討し、適合／

不適合の区分と期間等を投票で決定する（AVMA-COE, 2016, p. 11～12）。

2017年3月時点で、COEによって適格認定を受けた各国における獣医大学／学部数は、米国30、カナダ5、オーストラリア4、その他の諸国12である²。

4. AVMA-COE の評価システムの特徴

4.1. アウトカム・アセスメントの特徴

筆者の考える AVMA-COE の評価システムの特徴の1点目は、基準11「アウトカム・アセスメント」において、獣医大学／学部の卒業生が持つべき、また、社会へのエンタリレベルの米国獣医師に最低限求められる9つの能力を盛り込んだアウトカム・アセスメントの基準を導入するとともに、複数の具体的な数値基準をベンチマークとして用いて評価を行っている点である。この点について、以下で考察する。

(1) アウトカム・アセスメント基準における9つの能力

COE の評価基準は、前述のとおり、11の基準からなり、COE は、その基準の中で、特に、「基準11：アウトカム・アセスメント」を重視している（山口, 2015, p. 8）。また、基準11を全体の11基準の中で最も象徴的な基準として捉えている³。

基準11の内容は、表2のとおりであり、9つの能力を具体的に明記した特徴ある基準となっている。

表2 基準11 成果の評価

獣医学の学位プログラムの成果は、そのプログラムを改善するために測定、解析、検討される必要がある。新卒者は、それぞれ卒業時に、独立して、初級レベルの健康管理を提供するための基本的な科学的知識、技能、価値を持っていない。学生の達成度には、成果の評価が含まれなければならない。9つの能力のうちの1つ以上の能力を証明していない学生を是正するためのプロセスが必要である。 獣医学部は、学位プログラムの能力と学習目標が、結果として、初級レベルの能力となることを確実にするために、最近の卒業生に関する成果のデータを収集するための体制を整備する必要がある。 獣医学部は、以下の各能力を達成したことの評価の正確性を保証するために、適時に文書化して、学生が観察され、評価されるプロセスを実施しなければならない。 1. 患者の総合的診断（問題解決技能）、適切な臨床検査および記録の管理 2. 必要な場合の紹介を含めた総合的治療計画 3. 麻酔と苦痛管理、患者の福祉 4. 基本的な外科技能、経験、および症例管理 5. 基本的な内科技能、経験、および症例管理 6. 救急治療および集中治療の症例管理 7. 健康増進、生物学的安全管理、人畜共通感染症を含む疾病予防、および食品の安全性原則の理解 8. 畜主との情報交換と倫理的行動 9. 獣医療と関連する新たな情報や研究知見の批判的解析 教育審議会は、NAVLEを受験した獣医学部の卒業生の80%以上が卒業時に合格することを求める。
--

出所）AVMA-COE（2016）のp. 58に基づき筆者作成

COE は、獣医学部の学生が上記9つの能力の習熟度を示した直接的な観察に基づく証拠を提出することを求めている。また、9つの能力のうちの1つ以上の能力を証明していない学生がいる場合、それを是正するためのプロセスを獣医学部に置くことも求めている（AVMA-COE, 2016, p. 59）。

(2) アウトカム・アセスメントにおける数値基準

1) NAVLE の結果を用いたベンチマーク

COE は、過去5年間にわたる北米獣医師免許試験（North American Veterinary Licensing Examination: NAVLE）の学部スコアデータ及び合格率をベンチマークとして評価を行っており、表3の数値を入力する様式を提供している。

COE は、表2の基準11の中にも記載されているとおり、NAVLEを受験した獣医学部の卒業生の80%以上が卒業時に合格することを求めている。そして、2年連続して80%未満の合格率だった獣医学部は「認定保留（Probationary Accreditation）」に置かれることになる。さらに、4年連続して80%未満の合格率だった獣医学部は、その理由だけで、「認定停止（Terminal Accreditation）」に置かれることになる（AVMA-COE, 2016, p. 58）。この数値基準をベンチマークとして用いた評価手法は、AVMA-COE の評価システムの中で、最も特徴的といえる。

表3 NAVLE

年	試験を受けた学生数	試験に合格した学生数	平均スコア

出所）AVMA-COE（2016）のp. 60に基づき筆者作成

2) 学生の退学率を用いたベンチマーク

COE は、過去5年間にわたる退学率（退学理由ごと）をベンチマークとして評価を行っており、表4の数値を入力する様式を提供している。

各獣医学部は、表4にある退学率に関するデータを提出しなければならない。COE は、獣医学部の絶対的減少の割合の増大傾向がある場合、その要因を含めて説明することを求める。また、獣医学部は、その傾向を阻止するための手順と工程を実施することが求められる。加えて、もし、過去5年間の平均で絶対的減少の割合が20%を超える場合、COE は重点的訪問調査（Focused site visits）

を要求する (AVMA-COE, 2016, p. 59)。こうした退学率に着目したベンチマークを用いた評価手法から、訪問調査の内容を決めている点は、特徴的といえる。

表 4 退学率

入学年	減少*	相対的減少の理由**			絶対的減少****	
		勉学上の失敗／追加プログラム	個人的理由	編入***	人数	割合

* 絶対的減少と相対的減少の合計

** 相対的減少=別のクラスに移動したり、別の獣医学プログラムに移ったり、異なるクラス（以前のクラス）に移った学生数も含む

*** 別の獣医学の専門プログラムに移籍した学生

**** 復学できない学生

出所) AVMA-COE (2016) の p. 60 に基づき筆者作成

3) 雇用率を用いたベンチマーク

COE は、過去 5 年間にわたる雇用率をベンチマークとして評価を行っており、表 5 の数値を入力する様式を提供している。

表 5 雇用率

卒業年	卒業生の合計 (回答数)	獣医学関連 分野での雇用	高度臨床分野での雇用 (インターンシップ/ 研修医)	高度アカデミック トレーニング (修士、PhD)

出所) AVMA-COE (2016) の p. 60 に基づき筆者作成

各獣医学部は、表 5 にある雇用率に関するデータを提出しなければならない。COE は、獣医学部の雇用率の減少傾向がある場合、その説明を行うことを求める。また、もし、過去 5 年間の平均雇用率が 80%を下回っている場合、COE はその傾向に影響を与えている要因に関する分析結果を提出することを要求する (AVMA-COE, 2016, p. 59)。こうした雇用率に着目したベンチマークを用いた評価手法か

ら、上記の割合に応じて書類の提出内容を決めている点は、特徴的といえる。

なお、本稿では、紙幅の都合上、特徴的な指標として、上記の指標についてのみ言及したが、これらの指標以外にも、基準 11 の中の評価の視点には、学生の学習成果に関する指標、教育プログラムの成果に関する指標、機関全体の成果に関する指標が複数示されている (AVMA-COE, 2016, p. 58～59)。

4.2. 評価の国際的通用性を確保するための措置

—国際的な共同実地調査の実施—

(1) 海外の獣医大学／学部のアクレディテーション

COE の評価基準は、前述のとおり、11 の基準からなり、COE は、その評価基準に従って、米国・カナダに所在する獣医大学／学部のみならず、それ以外の諸国に所在する獣医大学／学部のアクレディテーションも実施している。海外の獣医大学／学部とは、米国とカナダ以外にある獣医大学／学部として定義される。海外の獣医大学／学部のアクレディテーションを実施する理由は、海外の獣医大学／学部のアクレディテーションが、世界における高水準の獣医学教育を支え、推進するとともに、動物衛生と公衆衛生を改善することになると確信しているからである。また、適格認定された獣医大学／学部のそれぞれの卒業生が、獣医学に関する基本的原則、科学的知識、身体的および精神的な技能を十分に身に付けていることを保証することが、AVMA-COE の目的である。(AVMA-COE, 2016, p. 14)。

実際に、AVMA-COE の適格認定を受けた海外の獣医大学の卒業生は、米国やカナダの AVMA-COE の適格認定を受けた大学の卒業生と同じような教育基準に基づいて教育を受けたということを、獣医師を認定する海外の組織は認識している (北海道大学獣医学研究科, 2011a, p. 22)。

2017 年 3 月時点で、COE によって適格認定を受けた海外の獣医大学／学部の数は、オーストラリア 4、イギリス 1、フランス 1、アイルランド 1、メキシコ 1、オランダ 1、ニュージーランド 1、スコットランド 1、西インド諸島 2 の合計 16 である。

(2) 海外の獣医大学／学部のアクレディテーション

COE は、評価の国際的通用性を確保するために、「(他国の評価者との) 国際的な共同実地調査」を実施している。その取り組みの導入経緯と概要を以下で述べる。

COE は、前述のとおり、米国・カナダ以外の獣医大学／学部のアクレディテーションも実施している。それらの獣医大学／学部の多くは、少なくとも 1 つかそれ以上の評価団体によって適格認定を受けている。例えば、英国の獣医大学／学部の多くは、英国獣医師会 (The Royal

College of Veterinary Surgeons: RCVS) から、オーストラリアやニュージーランドのそれは、オーストラレーシア獣医療審議委員会 (The Australasian Veterinary Board Council Inc: AVBC) から、それぞれ適格認定を受けている。

2002 年以降、獣医大学／学部のアクレディテーション及び獣医学教育の直面している様々な課題を議論するために、AVMA-COE、RCVS、AVBC、欧州獣医学教育機関連合会 (The European Association of Establishments for Veterinary Education: EAEVE)、及び南アフリカ獣医協議会 (The South African Veterinary Council: SAVC) のメンバーが参加した International Accreditors Working Group (IAWG) が形成された。この会合では、各国におけるアクレディテーション・プロセスの理解醸成や情報共有を図り、評価団体同士の関係を強めながら、獣医学教育の更なる質の向上を目指して、国際的な観点から議論が行われている。

その顕著な例として、2007 年において、IAWG のメンバー間で国際的な共同実地調査の価値が共有され、その試みとして、最初の国際的な共同実地調査をオーストラリアのマードック大学の獣医生命学部で実施したことが挙げられる。その国際的な共同実地調査は、AVMA-COE、RCVS、AVBC の 3 つの評価団体からの代表者と EAEVE、SAVC の 2 つの評価団体からのオブザーバーが、それぞれ参加して実施した。そして、最終的には、その調査結果を踏まえて、それぞれの評価団体が独立して、評価結果を下した (AVMA, 2010)。

その後、この会合では、オーストラリアだけでなく、ニュージーランドのマッセー大学で 2014 年までに行われた国際的な共同実地調査についても議論を行っている (AVMA, 2013)。

(3) 評価の簡素化・効率化を図るための措置

国際的な共同実地調査は、評価受審大学／学部にとっては、複数の評価団体から評価してもらえるというメリットに加えて、評価の負担 (例えば、作業や費用等における負担) 軽減を図り、効率的に評価を行うような工夫もなされている。

例えば、前述の事例に即して述べると、オーストラリアに所在するある 1 つの獣医大学／学部が国際的な共同実地調査を受け入れた場合、当該獣医大学／学部は、1 つの「点検・評価報告書」を、RCVS、AVBC、COE に対して提出する。その実地調査のチームは、前述のとおり、それら 3 つの評価団体からの代表者と EAEVE 及び SAVC からのオブザーバーによって構成されるが、その国際的な実地調査の回数自体は 1 回のみで終了となる (その期間は 1 週間程度である)。さらに、その国際的な共同実地調

査によって作成された評価結果報告書の草案は、適合／不適合の判定を下す各評価団体に (AVMA の場合であれば COE へ) 戻される。そして、最終的には、各国におけるそれぞれの評価団体が、独自に当該獣医大学／学部に関する適合／不適合の判定結果を下す。

以上のとおり、複数国の評価団体からアクレディテーションを受審することを意図している獣医大学／学部にとって、上記の国際的な共同実地調査の実施は、複数ではなく 1 つの「点検・評価報告書」のみの作成・提出で、また、複数ではなく 1 回のみの実地調査の受け入れで、それぞれ済むことから、同大学／学部のアクレディテーションに要する準備作業時間や費用の負担軽減に寄与しているといえる⁴。

5. 結論

—国際的通用性のある評価システム構築への示唆—

ここでは、冒頭で述べた「1. 本稿の目的」に対して、これまでの AVMA-COE 評価システムの考察を踏まえて、今後わが国の獣医学教育評価において、国際的通用性のある評価をより一層推進していくための示唆を導きたい。以下で、その示唆について、評価基準と評価手法の観点から筆者の見解を述べ結論にかえたい。

第 1 に、AVMA-COE の評価基準の中で、AVMA-COE が最も重視している基準であるアウトカム評価を、わが国の獣医学教育評価において、今後より一層充実させていくことが重要と考える。

大学基準協会の「獣医学教育に関する基準」の中の基準 2「教育課程・学習成果」では、「①学習成果の測定、②国家試験、卒後の進路」の 2 つの観点から評価されるようになっており、AVMA-COE の基準と類似した獣医師国家試験の合格率、卒業後の進路割合の数値基準は盛り込まれている。その一方で、①学習成果の測定については、「獣医学教育 (学士課程) の改善・充実を図るために、また自らが行った教育の社会に対する説明責任を果たすために、学位授与方針に示した知識、技能、態度等の学習成果を学生が修得したことを把握し、評価することが必要である。」という表現にとどまり、AVMA-COE の基準で 9 つ定められているような具体的な能力に関する記述までには至っていない。また、AVMA-COE では、アウトカム・アセスメントが 1 つの独立した基準として大きく取り扱われているのに対して、大学基準協会では、基準 2「教育課程・学習成果」の 2 つの基準の中の 1 つとしてそれが取り扱われ、さらに、その他の基準と比較しても、基準 2「学習成果」の評価の視点の数は少ないものとなっている (大学基準協会, 2016, p. 57～58)。

今後、わが国の獣医学教育評価において、国際的通用性のある評価を行うためには、アウトカム・アセスメントをより充実させ、具体的な能力の明示を基準の中に盛り込むとともに、AVMA-COEの基準などを参考にしながら、評価の視点をさらに拡充することが必要であると考え。特に、適格認定を受けた獣医学部の卒業生が持つべき、また、社会へのエントリー・レベルの獣医師に最低限求められる知識・理解・スキル等の望ましいアウトカム・アセスメント指標を盛り込んだ基準作りが必要であると考え。

第2に、将来的には、大学基準協会もIAWGのメンバーに加盟するなど、AVMA-COEをはじめとする獣医学教育評価を行う海外の評価団体と連携・提携しながら、国際的な共同実地調査ができるよう評価システムの充実を図ることが重要と考える。AVMA-COEは、上記で述べたとおり、評価プロセスにおいて、国際的な共同実地調査を行い、評価の国際的通用性を担保しようとしている。筆者は、このような新しい国際的なア krediteーションのモデルは、IAWGで継続的に議論されていること(AVMA, 2013)からもうかがえるように、今後も続くであろうと予想している。さらに、冒頭で述べたように、近年、わが国の獣医学教育課程を置く大学が国際認証取得を目指す動きが出てきていることから、将来的に、わが国においても、こうした新しい国際的なア krediteーションのモデルが注目されるようになり、また、そのモデルの重要性が今後ますます高まっていくはずであろうと予想している。

こうした将来性や重要性に鑑み、今後、わが国の獣医学教育評価において、国際的通用性のある評価を行うためには、例えば、国際的な共同実地調査が海外のある大学で実施された際、大学基準協会が海外の評価団体と連携・提携を図りつつ、まずは、大学基準協会の代表者がオブザーバーとして同調査に参加し実態を把握することからはじめることも1案であろうと考える。そして、その実態把握を踏まえ、将来的には、国際的な共同実地調査への正式な参加を見据え、①大学基準協会の基準と海外の評価団体の基準との整合性、②国際的な共同実地調査を行う上でのマニュアル作り、③同調査を行う場合の評価者の選出方法、④事務的な問題として同調査を行う場合の評価手数料や使用言語のあり方などの諸問題を大学基準協会において今後具体的に検討していく必要があるのではないかと考える。

6. 残された課題

最後に、本稿での残された課題を以下3点指摘したい。

第1に、本稿では、主に評価機関側の視点から考察してきたが、AVMA-COEの評価を受審した獣医大学／学

部の実態について考察し、評価受審側の観点から、その成果を考察する必要がある。例えば、佐々木(2014a)では、カリフォルニア大学デービス校(University of California, Davis)の獣医学教育課程の事例が考察されているが、AVMA-COEの評価を受けた結果、当該獣医大学／学部は、どのような成果が得られたのかなどを今後考察することが必要である。

第2に、AVMA-COEの認証評価を受けた大学の事例などを通して、わが国の大学がAVMA-COEなどの海外の評価機関による国際認証をクリアする際の課題についても考察する必要がある。この点については、「2. 先行研究」で述べたように、佐々木(2014a, 2014b)において指摘がなされている。また、AVMA-COEではないが、EAEVEの国際認証をクリアするためのわが国の大学における課題については、北海道大学獣医学研究科(2011)や獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議(2012)において指摘がなされている。さらに、近年では、帯広畜産大学の国際認証推進室で研究が進んでおり、例えば、倉園(2014)において、EAEVEの国際認証をクリアするための教育面や施設面での課題が多数指摘されている。今後は、こうした課題について考察することが必要と考える。

第3に、本稿では、AVMA-COEの評価基準を取り上げて考察したが、わが国の獣医学教育評価の国際的通用性を確保する上で、アメリカのAVMA-COEのみならず、その他の海外諸国の獣医学教育評価団体の評価基準も視野に入れて考察することが今後必要であろう⁵。

注

¹ 帯広畜産大学の国際認証推進室については、以下を参照。<http://www.obihiro.ac.jp/ichiran/office.html> (2017年3月27日)

² 各国の詳細については、AVMA-COE “Accredited Veterinary Colleges” に記載されている。<https://www.avma.org/ProfessionalDevelopment/Education/Accreditation/Colleges/Pages/colleges-accredited.aspx> (2017年3月25日)

³ この点については、Dr. Jayne Jensen, Council on Education Member が AVMA-COE の紹介動画で指摘している。https://www.youtube.com/watch?v=dna_MtqFKMQ (2017年3月27日) なお、ここでいう最も象徴的な基準とは、次のような意味である。第1に基準11には、以下で述べているように、北米獣医師免許試験のスコア、学生の退学率、雇用率といった指標のほか、教育プログラムの成果に関する指標、機関全体の成果に関する指標が複数示され、どのように学生、教育プログラム、機関全体の各レベルで教

育改善がなされているかという成果を証明することが求められている点から、基準 11 は、いわば各獣医大学／学部における獣医学教育の全ての面を包括した内容を含む評価の視点で構成されているといえる。この点が他の評価基準と比較した場合の基準 11 における特徴的な点であるといえる。第 2 に AVMA-COE は、本論文の p. 3 で述べたように、AVMA-COE の大切な責務の 1 つとして、獣医学教育の全ての面における継続的改善を推進することを掲げている。以上の 2 点から、基準 11 は AVMA-COE の獣医学教育全般の継続的改善を推進するという主要な責務を、他の評価基準と比較して、最も象徴的に示している基準であると AVMA-COE は捉えているということである。

⁴ これらの記述は、AVMA (2010) の記事に基づく。

⁵ AVMA-COE、RCVS、AVBC のアクレディテーション基準を簡単に比較したものとしては、以下がある。<http://www.ugc.edu.hk/eng/doc/ugc/publication/report/vstfreport/accreditation.pdf> (2017 年 3 月 27 日)

引用文献

- AVMA (2010). *AVMA News: AVMA global outreach efforts strengthened*. (<https://www.avma.org/News/JAVMANews/Pages/100601m.aspx>) (2017 年 3 月 26 日)
- AVMA (2013). *AVMA News: International Accreditors Working Group to meet in London*. (<https://www.avma.org/News/JAVMANews/Pages/131201d.aspx>) (2017 年 3 月 25 日)
- AVMA-COE (2016). *ACCREDITATION POLICIES AND PROCEDURES OF THE AVMA COUNCIL ON EDUCATION May 2016 (Revised September 2016)*. (https://www.avma.org/ProfessionalDevelopment/Education/Accreditation/Colleges/Documents/coe_pp.pdf) (2017 年 3 月 25 日)
- 大学評価・学位授与機構 (2016). 『平成 27 年度文部科学省先導的大学改革推進委託事業 我が国における大学教育の分野別質保証の在り方に関する調査研究報告書』.
- 大学基準協会 (2016). 『獣医学教育ハンドブック』 (http://www.juaa.or.jp/accreditation/veterinary_medicine/handbook.html) (2017 年 3 月 27 日)
- 北海道大学獣医学研究科 (2011). 『平成 23 年度 先導的大学改革推進委託事業 諸外国における獣医師養成制度に関する調査研究 実施報告書Ⅱ』.
- 獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議 (2012). 「資料 4 獣医学教育を巡る国際的動向 (海外大学、第三者評価機関の取組を中心に)」北海道大学獣医学研究科 橋本教授説明資料①②.
- 倉園久生 (2014). 「獣医学共同教育課程の国際認証に向けた取り組み」帯広畜産大学獣医学教育国際認証推進室、平成 26 年度 第 1 回 FD 研修会資料. (http://www.obihiro.ac.jp/~gakumu/upload/ca_whatsnew/src1/file_set48.pdf) (2017 年 3 月 27 日)
- 中山裕之 (2016). 「獣医学教育の専門分野別評価システムの構築に向けた検討状況について」大学基準協会『じゅあ』第 56 号, 6.
- 日本学術会議・食料科学委員会・獣医学科分科会 (2017). 「提言 わが国の獣医学教育の現状と国際的通用性」.
- 佐々木直樹 (2014a). 「獣医学教育国際認証組織 American Veterinary Medical Association (AVMA) 認証の条件」『獣医畜産新報』67 巻 5 号, 348–358.
- 佐々木直樹 (2014b). 「韓国ソウル大学獣医学部の獣医学教育国際認証組織 American Veterinary Medical Association (AVMA) 認証へのロードマップ」『馬の科学』51 (3), 225–227.
- 山口 豪 (2015). 「米国獣医師会教育審議会 (AVMA-COE) の大学評価システムについて」大学基準協会編『大学評価論の体系化に向けた調査研究報告書』243–249.

Characteristics of the Accreditation System in the American Veterinary Medical Association Council on Education: Implications for the Establishment of the Internationally Valid Evaluation System of Japan in Veterinary Education

Go Yamaguchi

(Undergraduate Academic Affairs, Digital Hollywood University)

The purpose of this study is to consider the characteristics of the accreditation system in the American Veterinary Medical Association Council on Education (AVMA-COE) to enable the Japan University Accreditation Association (JUAA) to construct an internationally valid system for veterinary education in Japan.

First, a general view of recent environments surrounding Japanese veterinary universities is provided, and second, previous research related to the AVMA-COE accreditation system is reviewed.

Third, the features of the forward-looking AVMA-COE accreditation system are analyzed, focusing on outcome assessments and joint international site visits of the AVMA-COE.

Finally, based on the above considerations, this paper proposes future directions for the establishment of an internationally valid evaluation system in veterinary education in Japan.

Keywords: American Veterinary Medical Association Council on Education, Outcome Assessments, Joint International Site Visits, Internationally Valid Evaluation System in Veterinary Education, Programmatic Accreditation